

令和7年度

不登校総合対策について

日野市における不登校の現状と 支援・対策について

令和8年2月9日

日野市立教育センター

相談部 学校教育支援係

教育支援コーディネーター 大和田 邦彦

『日野市不登校支援パンフレット』

学校が苦手な児童・生徒の保護者の方へ
不安や困りごと、ありませんか？



わかば教室の子どもたちの共同作品（令和7年3月）

学校に行きたがらない

- 学校から帰ってくるといつも疲れている
- 学校に行こうとすると頭やお腹が痛くなる
- 家や自分の部屋から出たがらない

子どもへの接し方が分からない

- 子どもに学校に行くよう働きかけてよいのか
- 家庭学習を続けるべきか
- 学校に行かない理由を聞いてよいのか
- 誰にも相談できない
- 理由を聞いてもよく分からない／答えたがらない

心配な状態が続いている

- ゲームやSNSに没頭して昼夜逆転している
- 学習の進度が遅れ、学校の授業についていけない
- このままでは、将来、進学や就職できないのではないかと

一人で悩まないでください

不登校は誰にでも起こり得ることです。お子さんや保護者の方の周りには、行政・民間の様々な支援の輪が広がっています。このパンフレットでは、不登校等で学校が苦手なお子さんの保護者の方の相談先などについてご紹介します。

日野市立教育センター

- 1 不登校の現状**
- 2 不登校のきっかけに関わる二つの視点**
- 3 相談で増えてきている傾向**
- 4 日野市立学校の不登校総合対策**
- 5 学校の支援の好事例について**

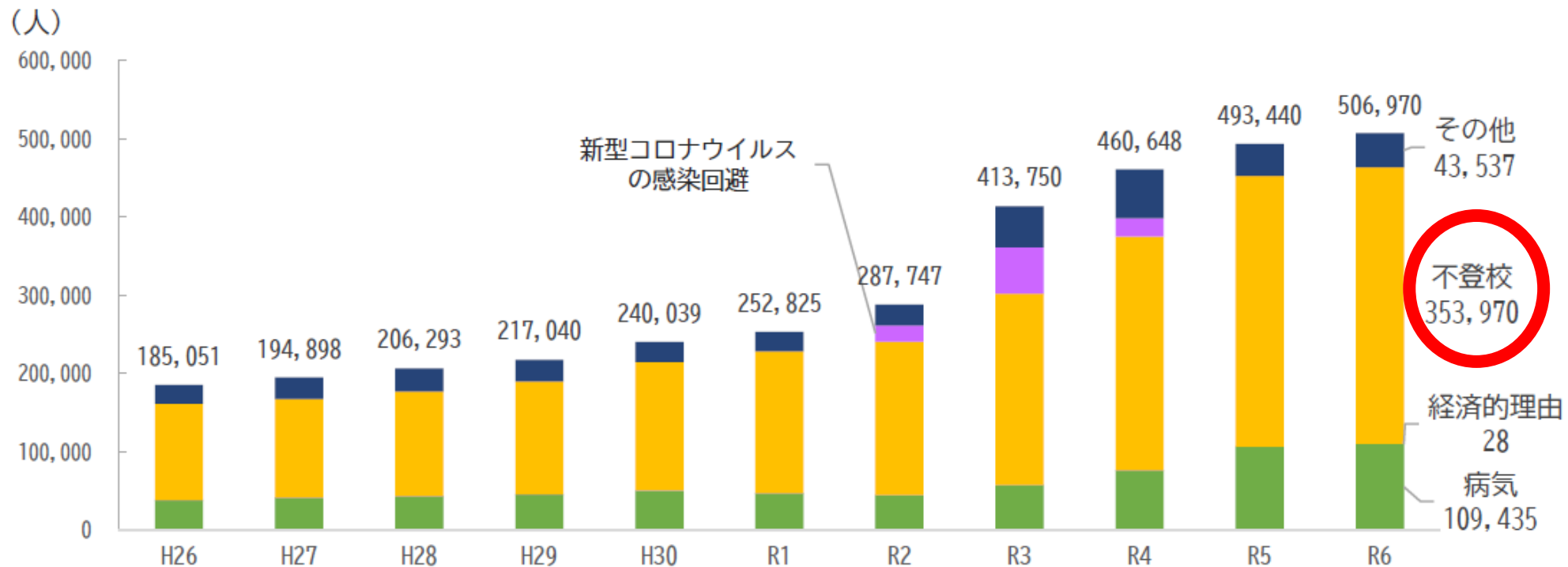
1 不登校の現状

小・中学校における長期欠席の状況

全国

- 小・中学校における長期欠席者数は506,970人（前年度493,440人）
- このうち不登校によるものは353,970人（前年度346,482人）

小・中学校における長期欠席者数の推移



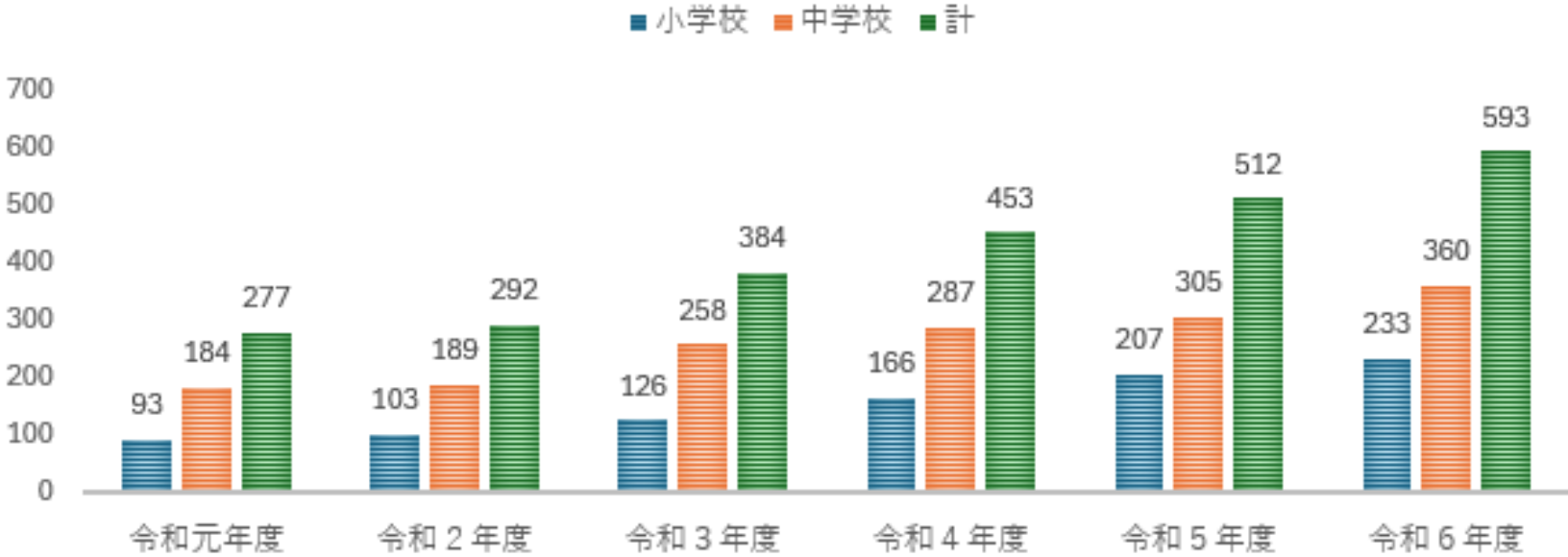
「令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」から

日野市立小中学校

不登校者数

6年間の推移

日野市立小中学校不登校数推移



	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	93	103	126	166	207	233
中学校	184	189	258	287	305	360
計	277	292	384	453	512	593

	平成22年度	令和6年度
小学校	1/263	1/40
中学校	1/33	1/12

『14年間の不登校者の増加について』（日野市）

小学校：1/40不登校：学校で2、3名⇒**ほぼ全学級1人**に

中学校：1/12不登校：**学級**に1名⇒各学級**3名を超える人数**に

校内一部で対応⇒校内組織的対応・関連機関・専門家との協働

2 きっかけ 〈二つの視点〉

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

「不登校児童生徒について把握した事実」

…市の傾向

〈小学校〉

- 1 学校生活に対してやる気が出ない
- 2 不安・抑うつ相談があった
- 3 生活リズムの不調に関する相談…
- 4 学業の不振や頻繁な宿題の未提出…
- 5 親子の関わり方に関する問題の…

〈中学校〉

- 1 学校生活に対してやる気が出ない
- 2 生活リズムの不調に関する相談…
- 3 不安・抑うつ相談があった
- 4 親子の関わり方に関する問題の…
- 5 学業の不振や頻繁な宿題の未提出…
- 5 家庭生活の変化に関する情報…

調査で公表された要因

～もう一つの視点～

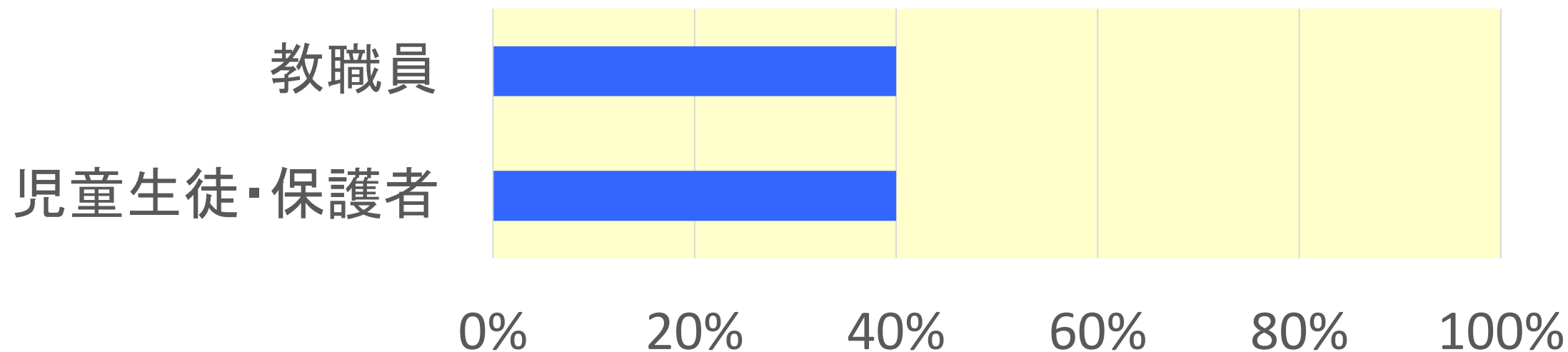
当該児童生徒や、その保護者から聞き取った委託調査

文部科学省委託調査：

令和4年度の問題行動・不登校調査で不登校とされた児童生徒についての分析（子どもの発達科学研究所）

「不登校になったきっかけ」としての回答 1

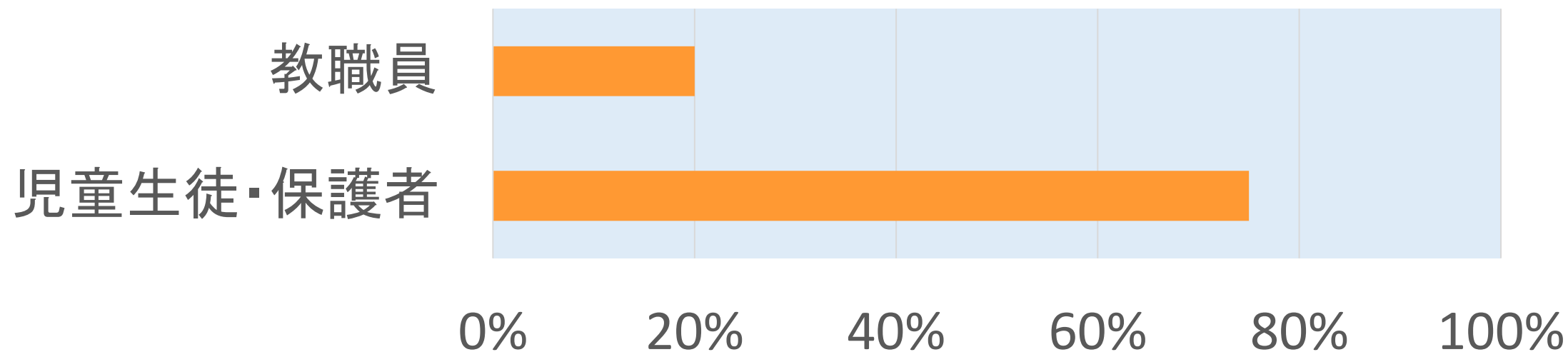
「学業の不振」「宿題の提出」など



「不登校になったきっかけ」としての回答 2

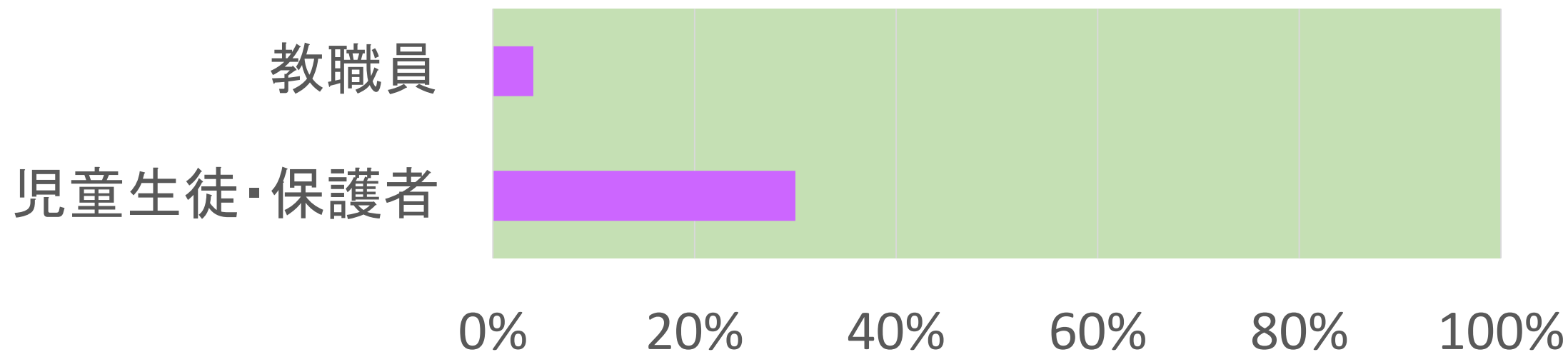
「体調不良」「抑うつ症状」

「居眠り、朝起きられない、夜眠れない」



「不登校になったきっかけ」としての回答 3

「いじめの被害」「教職員からの叱責」
「教職員への反抗・反発」



「不登校になったきっかけ」

千葉県教育委員会 **本人調査** (令和5年度) R4・5 30日以上欠席者

「学校に行きたくなくなったきっかけ」(複数回答)

- ・体がきつかった (40.5%)
- ・朝起きようと思っても起きられなかった (39.3%)
- ・自分でもよくわからない (37.8%)
- ・先生のことでも気になることがあった (27.9%)
- ・勉強が分からない、授業についていけなかった (24.9%)
- ・友達のことでも気になることがあった、いやがらせやいじめがあった (24.9%)

3 児童生徒のようすから～調査・学校訪問・相談をとおして～

HSC

H Highly

S Sensitive

C Child

ひといちばい感受性が強く、

ひといちばい敏感で繊細な気質をもつ

子ども

HSCの主な4つの特徴 (DOES)

- ・ 物事を深く考える (**D**epth of processing)
- ・ 刺激を受けやすい・疲れやすい (**O**verstimulation)
- ・ 感情反応が強い・共感力が強い
(**E**mootional responsiveness & **E**mpathy)
- ・ ささいな刺激に気付く (**S**ensing subtleties)

- ・ 騒々しさが苦手
- ・ 刺激を感じやすく、肉体的にも精神的にも疲れやすい
- ・ 期待に応えようとして頑張りすぎたり、人間関係のストレスから学校に行けなくなる
- ・ 他人の気持ちを深く察し、やさしい行動

4 不登校総合対策に関連して

「日野市立学校の不登校総合対策」

日野市教育委員会 令和7年5月

不登校児童・生徒への支援の目標

社会的自立に向け、学びにアクセスできない子供をゼロにする

この実現に向け、日野市教育委員会では、

- ① 学校が安心できる場所であること
- ② 一人一人の状況に応じた多様な居場所や支援を通じて、子供を孤立させないことを目指して、不登校の児童・生徒への対応を推進していきます。

推進に当たっては、日野市教育委員会や学校だけでなく、子供に関わる行政各部門、地域、家庭、フリースクール関係者等が相互に理解や連携をしながら、子供たちの主体的な進路選択や社会的自立に向け、それぞれの役割を果たしながら取組を進めることを大切にしています。

日野市の不登校施策等の全体像

子供を中心に、関係機関等が連携しながら取り組みます。



市立小学校・中学校



所属する学級

特別支援教育

特別支援学級

通級指導学級

特別支援教室（ステップ教室）

入級等に当たっては、エールにおいて検討会を行います。

教職員等が連携しながら必要な支援等を行います。

校内教育支援センター

校内委員会等での検討を基に、所属する学級の外でニーズに応じた具体的な支援を行います。

教育相談室

スクールカウンセラー等が相談を行います。

校内登校支援教室

一人一人に必要な支援を行います。

オンライン
学習等

リソースルーム

少人数の補充学習等による学習支援を行います。

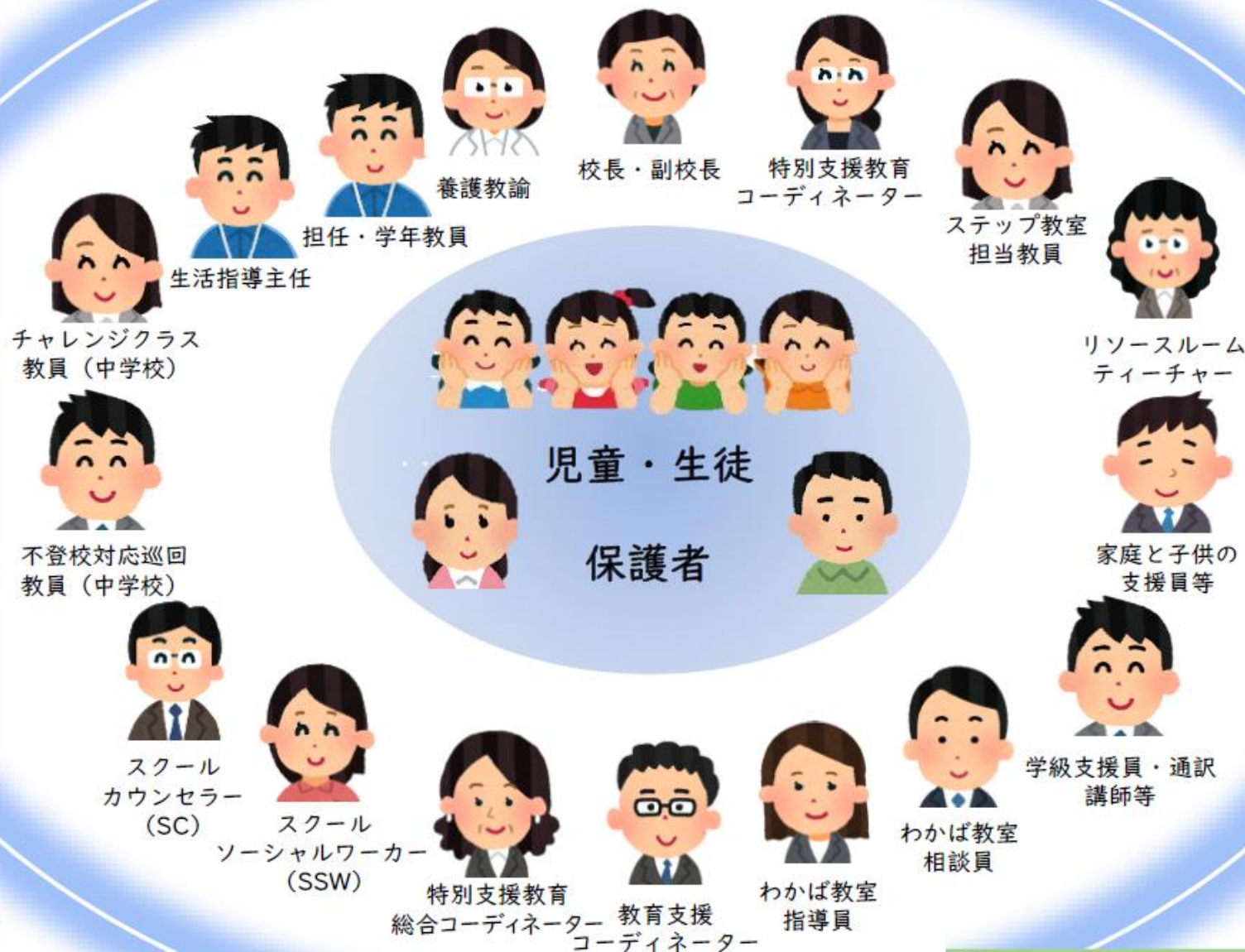
校内委員会

学校全体で情報を共有し、チームとしての速やかで具体的な指導・支援の手だてを検討します。

チャレンジクラス (三沢中学校)

不登校又は不登校傾向のある生徒を対象に、安心して学校生活を送り、チャレンジ意欲を育むことができるよう、1日4時間（2～5校時）程度で教育活動を行う不登校対応校内分教室です。

※他校からも転校した上で入級が可能です。まずは在籍校にご相談ください。



相談・支援機関等

子ども家庭支援
センター
セーフティネット
コールセンター
子どもオンブズ
パーソン
ヤングケアラー
コーディネーター
民生・児童委員
児童相談所
医療機関
放課後デイサービス
ひのっち
（放課後子ども教室）
児童館 等

※「子どもなんでも相談」にお気軽にご相談ください。



教育支援センター（日野市立教育センター）

社会的自立心の醸成並びに学習及び学校への登校の相談や支援を行います。



わかば教室

様々な要因により、長期間の欠席状況にある児童・生徒を対象に、社会的自立心の醸成並びに学習及び学校への登校の相談や支援を行います。

保護者同士の交流

学習支援

体験活動

（わかばタイム・わかデミー等）

オンライン わかば

不登校に関する相談

「不登校支援パンフレット 学校が苦手な児童・生徒の保護者の方へ」



日野市発達・教育支援センター「エール」

「福祉」と「教育」が一体となった総合支援を行います。
0歳～18歳までの子どもたちの育ちを切れ目なく支援します。



幼児相談・教育相談

SSWによる
家庭への支援・居場所事業

心理相談、
言語相談、医療相談等

※子ども・保護者どちらも相談可能です

地域の居場所等

安心して過ごすことのできる行政・民間の居場所です。

みらいく

中高生世代スペース

児童館

子どもと保護者の居場所

ほっとも

居場所・学習支援

公民館

居場所・学びの場

図書館

居場所

カワセミ
ハウス
居場所

ほっとプレイス
うちたす
居場所

プレーパーク

無料塾

子ども食堂

日野市
子どものための
居場所マップ



「子どもの味方
スペース」
リーフレット



フリースクール等の民間施設

学校等と連携・教育し、学びや自立等を支援します。



事例1 (小学生女兒)…別室を利用することで安心感を得、登校を再開

1学期

①教室への登校ができなくなった(急激な出席減)

②5月、1日数時間…疲労がみられる

母:「無理に登校させたくない」

③6月、移動教室のみ参加…別室否定的

④7月別室で2時間程度過ごす(1日のみ)

⑤夏季休業中、三者面談

…「2学期から通学したい」と話す

2学期

①8月、出席0…リモート参加(1日)

②9月、出席2…授業見学と別室で過ごす

…友達と過ごす・給食を食べる

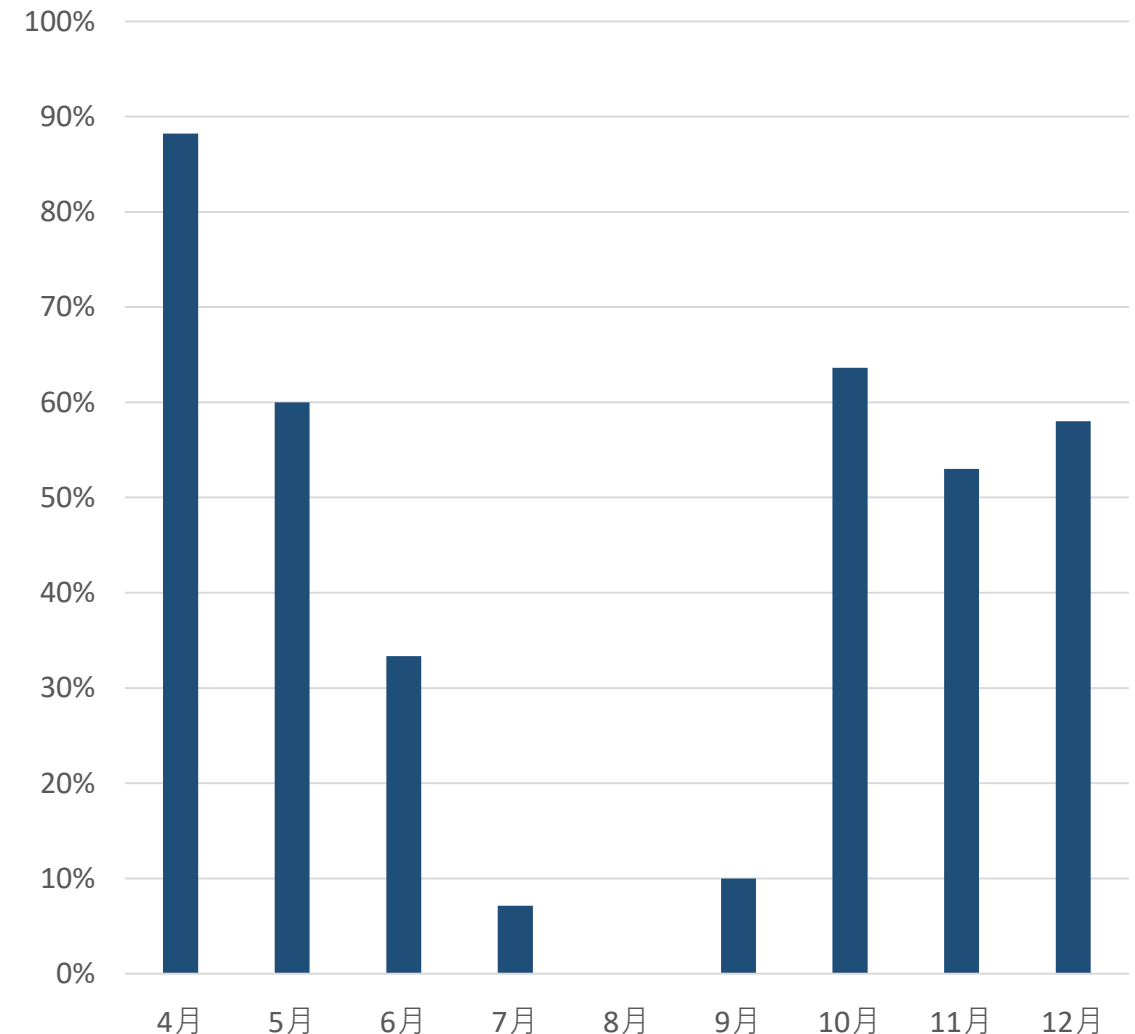
母:登校を支える声掛け

③10月、別室に通う日が増えた(短時間)

④11月、別室にほぼ1日過ごすことが増えている

*担任・SC・SSW・Co.が協働支援 保護者の支援も変化

出席率



事例2 (中2・3年女子)…受け身だった行動⇒積極性がみられるように

2年生(別室利用開始当初)

- ①別室に通うも、当初他者とかかわることがほとんどなかった
- ②同じ部活のBさんが来ると安心するようで通室を楽しみにしているようすがみえるようになった
- ③Bさんが部活に誘ってくれることが別室登校のきっかけになった
- ④Bさんがいないと不安な様子で支援員に居場所を聞くなどの様子が見られた
- ⑤数名の通室者と雑談やカードゲームをして過ごすことが多かった
- ⑥学習は、個人の課題に取り組むことがあった



3年生(別室を継続的に利用)

- ①教室で過ごせなかった弟を伴って、別室に通うようになった
- ②弟に声を掛けながら、面倒を見る様子がみられた
- ③一緒に活動する通室生が増えてきた
- ④後から通室するようになったCさんのことを気かけ、話しかけるながら過ごすようになった
- ⑤Bさんとは、より関係性が深まり、数学の問題を一緒に解く様子に変化してきている

***安心して過ごせる人との対人関係を深め、
他者に関わる自信をつけて、積極性も見せながら
過ごし始めている**

事例3 (小学校の“校内登校支援教室”)…固定した場所はなくても

昨年度の事例

C小学校…児童数と教室数の関係で
固定化した「別室登校支援教室」が
設置できていない

Q:
「こちらの学校は不登校(不登校傾向)の児童が少ないように感じます。」

「休み始めた児童が月が進むにつれて、欠席が増え、30日を超えるケースが多いのですが、増え方も抑えられているように感じます。」

「なにか特別な対応をされているのでしょうか。」

A:

「休みはじめにいち早く気づいて、一週間以内を目標に、教室に戻れるようにしようと、教職員全員で取り組むようにしています。」(C小の「コンセンサス」…不登校を生まないようにしようという「合意」)

「本人の話をしっかり聞き、なぜそうなっているかを知ることが大切です。」「担任がすぐに聞けなければ、職員室にいる教員が、養護教諭が、副校長が、校長が…、とにかく早く聞いて、対応を考えます。早くよく聞くこと、対応を始めることを進めていて、多くのケースは一週間以内に改善しているように思います。」

***これを支えているもの「校内委員会」**

⇒簡潔で、見逃さない全学年の児童の情報共有

事例4 (小学校)…わかば教室利用者が自校にて過ごす

令和6年度 ほぼ「わかば教室」に通室

⇒令和7年度 自校の「別室」に通学(「教室」にも)

「学校(教室)に通えなくなった児童・生徒」



わかば教室へ
「要因の一つ」 ◇対人関係◇ 「要因ではない」



離れることで安定



新たな関係(同級生・
異学年)から再構築

・
・

＊不登校要因によって過ごす場所をどうするか



校内登校支援教室へ



同級生との関わりの再構築



部分的授業へ参加
給食を用意するところから
一緒に食べるように

・

事例(児童同士の関係性から生まれる気持ちの変化)

「別室登校支援教室」を利用する児童の提案

①別室利用児童の思い

…教室には入れないが校内に話せる子はいる

…会いに来てくれるし、会って話したい

…でも、廊下で話すと他の視線が気になり辛い

〈別室利用者の中には、だれにも会いたくない子も〉

②別室の出入り口に「カーテンで仕切ったコーナーを
設置した」

…視線を気にせず、話ができる

(室内で過ごす他児への配慮もしながら)

③「給食を運んでもらう」⇒「給食を取りに行く」⇒
「数人と食べられるようになる」…

(選んで授業にも参加)

事例5 (E中)…SSWとの協働

SSWとの協働

Q:

「SSWと連携して、不登校児童生徒、保護者とかかわっているケースについて、例えば、家庭訪問はどうしていますか。」…いろいろなケースがあると思いますが

⇒「担任とSSWと一緒に家庭訪問する」

「SSWが家庭訪問する」

事例(担任とSSWと一緒に家庭訪問することで)

家から外に出ることがなかった生徒に、担任が外でのキャッチボールを提案。SSWも一緒にいることで3人のキャッチボールが成立。

担任のアイデアとほかにもう一人いることでの雰囲気づくりによる変化

校内委員会でのSSWとの協働

Q:

「あなたの学校の校内委員会ではSSWとの協働がどのように進んでいるでしょうか」

SSWは

支援対象

①子ども

②子どもを取り巻く環境
家族、学校、地域

つまり、困っている子どもを支援するだけでなく、子どもを支える地域と学校を支援し、支援体制を整備します。

SSWが参加している「校内委員会」の中には、

次第にSSWからの時間を設けているところもあります。SSWのもつ、ネットワークから、学校ではなかなか進められない「支援」についての情報提供を受け、連携を深めているケースもあり、有効

事例6 (小学校と「わかば教室」)…併用からの回復

事例

(集団生活への不安が非常に強い児童のケース)

①4月、全日出席(集団生活の不安を話す)

…一部の授業参加と別室の利用を併用

②5月、欠席2

…移動教室への不安も重なり情緒が不安定に

③6月、欠席2

…泣きながら登校 別室の利用が基本になる

④7月、欠席0(わかば通室6)

…「わかば教室」通室開始(少人数が心地よい)

…算数の苦手を本人・家庭も心配する

…学校では別室で過ごす

…SSWとも連携、保護者への支援連携

⑤8月、欠席0(わかば通室2)

…7月同様、学習内容の調整始める

⑥9月、欠席0(わかば教室6=週2)

…「別室」と「わかば教室」の併用

…本人と話し、国語・算数の学習内容を調整
(苦手意識への調整)

…行事参加の調整・係活動を選ぶ・自己決定

…別室が中心になり、家庭生活も落ち着く

⑦10月、欠席0(わかば教室6)

…「別室」と「わかば教室」の併用

+リモートによる授業参加(別室から)

⑧11月、欠席0(わかば教室7)

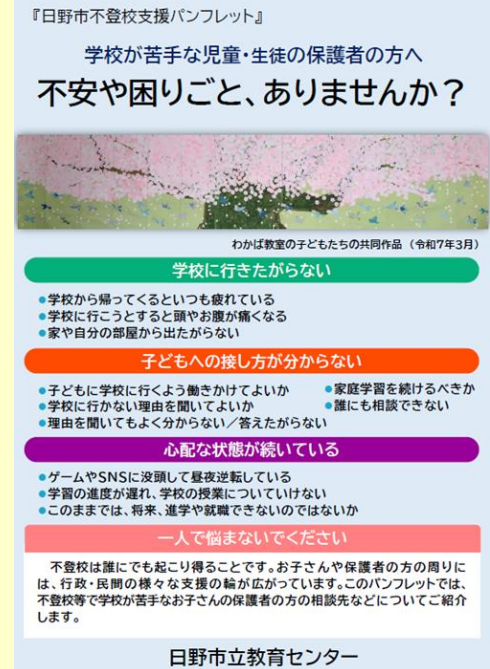
…「別室」と「わかば教室」の併用継続

+リモートによる授業参加(5科目以上に増)

***教室の児童との交流も増えてきている**

教育支援コーディネーターとしての取組

- 1 出席状況調査（毎月）・学校訪問の取りまとめと分析（市立小中学校25校）
及び 各学校に対する不登校対応についての支援
- 2 わかば教室に通室している児童生徒の状況の確認と
各学校との連携についての支援（情報共有）
- 3 保護者・学校からの相談への対応（わかば教室相談窓口と連携・コーディネート）
- 4 不登校支援対策の情報提供…「不登校支援パンフレット」の配信
- 5 チャレンジクラス入級等に関する事項
- 6 スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携・情報共有
- 7 フリースクール等との連携窓口（研修会準備・情報の整理等）
- 8 研修講師（民生・児童委員研修、大学生への研修、生活指導主任研修）
- 9 「日野市不登校総合対策」にかかわる業務（周知・現状把握・助言等）
- 10 「校内委員会」への参加・助言等
- 11 支援シート（アセスメントツール）作成活用の助言や関係者会議への参加
- 12 効果的な実践例の収集と紹介（対応方法の共有）



**すべての“いのち”が
よろこびあふれる今と未来を
つくっていく力**

ご清聴ありがとうございました

資料

日野市における不登校対策として ～学校における児童・生徒への支援～

長期化への対応

長期間欠席している児童・生徒への支援

(3) 長期間欠席している児童・生徒へ支援□□□
…【長期化への対応】

外部関係機関とも連携した総合的な支援

早期発見・早期対応

休み始めた児童・生徒への支援

(2) 休み始めた児童・生徒への支援□□□□□□□□
…【早期発見・早期対応】

早期の気づきと校内共有・組織的対応

未然防止

全ての児童・生徒への支援

(1) 魅力ある学校づくり…【未然防止】

第4次日野市学校教育基本構想を生かした
学校づくり等

適切なアセスメントと具体的支援のさらなる推進

東京都教育委員会発行（平成31年3月）

「児童・生徒を支援するためのガイドブック～ 不登校への適切な支援に向けて～」等の活用

「活用の手引き」「支援シート」☆

「支援シート使い方ガイド」

同資料は、

BPSモデル（Bio-Psycho-Social Model）に基づき「身体・健康面」、
「心理面」及び「社会・環境面」という3観点から、子どものア
セスメントを行うことができ、その状況から支援策の立案の
参考ともなるガイドブック

